

行政視察内容報告書

令和2年11月19日

土佐清水市議会
議長 永野 裕夫 様

(提出者) 会派名 議会会派みらい
氏名 浅尾 公厚



下記のとおり報告します。

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係 <input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	作田喜秋・谷口佳保・武政健三・山崎誠一・浅尾公厚		
	計 5 人		
期日	令和 2 年 11 月 11 日 ~ 令和 2 年 11 月 12 日		

【概要】(年月日・場所・内容)

- 株式会社 山のくじら舎 令和2年11月11日 午後1時30分～
- 津野町役場 令和2年11月12日 午前9時30分～
- 葉山風力発電所 令和2年11月12日 午後1時30分～

午前8時30分 土佐清水市役所を出発。

午後1時15分 安芸市役所到着。観光商工課長山崎富貴氏に挨拶。

株式会社山のくじら舎を訪問し、萩野和徳社長から説明を受ける。

材の仕入れは、製材所の社長と材木市場に行き、材の見立てをしていただき、製材にしてもらい、製材された物は、自社に持ち帰り、乾燥(広い敷地に棚を作り年代に分けて乾燥)する。乾燥した材は建具屋に搬入し、削り、組み込み(製品として出来上がりが綺麗とのこと)を行う。自社では、糸鋸で形を切り取り、レーザーで焼き付けなどの作業を行う。

従業員は現在、女性18名、男性3名。技術を身に着けるためにきていただいているという。

製品もさることながら、従業員の育成・指導が徹底されており、一丸となって製作・営業を行っており、すごい会社であると感じた。分業することにより、地域の活性化が一番と考えているようだ。

最初は、社長本人も奥さんも県外出身で販路がなかった。高知空港の土産売場へ製品の売り込み

など、他にもいろいろ営業に回ったらしい。

社長の友人から、子供が遊ぶ安全な木のおもちゃをつくってくれないかと相談が来て、思案し、魚の切り抜き（材はヒノキ）を製作して送ったら、ものすごく好評（ヒノキの匂いがいつまでたっても良い、型がくずれない）だった。口コミ、携帯電話（SNS）等で売り上げが増えたそう。皇室の方々も、くじら舎のヒノキのおもちゃを買ったとのこと。

はたして、清水では、自社で加工から製品、売買までできるものをわざわざ分業してまでやっていく会社はあるだろうか。

社長曰く、「清水には、すばらしい物がたくさんあり、営業次第で伸びるし、魅力がいっぱいありますよ」と言ってくれた。

安芸市のくじら舎のように、工程を分散し、収益を分け、よりいっそう町を発展させる思いは大切。清水にも良い素材がたくさんある。経営者の方々が知恵を出し合えば、営業をよくやれば、ますます増益、発展してくだらう。

11月12日午前9時15分津野町役場に到着。

午前9時30分からペーパーレスについて、議会事務局長津野清司氏から今までの取組・現在の結果について説明を受ける。

何年か前に、清水でもペーパーレスに取りかかった時、視察もしたが、その当時はタブレット1台何十万円もしたため、ペーパーレスの話題は消えた。津野町で使用しているタブレット1台の値段53,130円、月使用料7,535円とのこと。

ペーパーレスは、紙での通知を少なくし、紙の配布を無くするために必要。清水の議会もペーパーレスをもう一度見直し、早くタブレットを導入していかなければと思う。

地域おこし協力隊について

町の職員と地域の住民がひとつとなっている。イベントもいろいろ話し合い、実行している。棚田キャンドルまつりは毎年行っているが、今年は、「コロナ禍でのキャンドルプロジェクト～地域から医療従事者の方へ感謝の気持ちとエールを届ける～」を行い、協力隊、学生、職員、住民でキャンドルに火を灯したとのこと。TVでは点火する場面が放映されていた。

清水においては、私は今まで3名の協力隊に関わってきたが、短期で引き上げていった人もいる。津野町の取組は素晴らしいと思うが、津野町は清水と比べて都市部が近いことも羨ましく思う。

また、津野町は、町・地区民・協力隊（移住者）との連携が取れている。清水においても、これまで以上に3者・4者との連携が取れれば協力隊、移住が増えると考えられる。

庁舎から1時間位かかって葉山風力発電所に行く。

国道から見えるのだが、遠かった。企画調整課長三木修司氏ほか職員の方が案内してくれた。現場に着くと電力会社職員2名が、すでに来ていて、風車の説明を受ける。

塔の高さ68m、羽の直径61.4m

1基あたり年間240万kwh

設置数20基

設置するにあたり、人や動植物などに対する被害・自然環境調査を行い、ここの風車は、すでに15年たっている。電気は地下にパイプを通して送電線で仁淀川町の大渡ダムに送電している。

風力発電は、売電だけだと思っていたが、無風・強風で羽を止めている間は、電力会社から買っているとのこと。

羽を始動するのはモーターで動く。その時には、電力が必要だそうで、少額ではあるが、電力会社に料金を支払っていると説明を受けた。

葉山風力発電所の敷地全体が公園となっており、トイレの設置もされており、家族で楽しめる場所であった。遠くの山、石灰を搬出する山が有り、風光明媚な発電所であった。

今後も風力発電については検討していく必要があると思った。